

## 令和5年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

推進責任者： 附属図書館長

## 1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
図書館の利用環境の整備状況及び活用状況	学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えられていること。	紙媒体（印刷物）の蔵書数、電子情報資源の利用可能種類数、マイクロ資料の所蔵数、視聴覚資料の所蔵数について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の整理（処理）及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めていること。	図書・雑誌受入数、サービス状況、図書館の公開、他機関との連携、電子図書館的機能、機関リポジトリについて、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員が置かれていること	図書館・室の職員数について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えていること。閲覧室には、学修（学習）及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。	施設・設備について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である

## 令和5年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

### 2.結果総括

<p><b>【優れた点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>R2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症対策下の様々な制限の中での図書館のサービス提供。（地域貢献含む）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重資料展「悲劇の藩主 細川光尚」、公開講演会／永青文庫セミナーを対面開催し、歴史的貴重資料の公開による社会貢献を実施。公開講演会／永青文庫セミナーについてはオンラインでも配信し、近隣地域以外にも社会貢献</li> <li>・ オープンキャンパス対面開催を再開。オンライン版オープンキャンパスも内容を更新して継続実施</li> <li>・ 図書館利用者向け展示を17回開催し、図書館資料を多面的に紹介</li> <li>・ 研究室と附属図書館の合同企画 企画展 X I 「江戸時代の国際ターミナルー「鎖国」下の長崎ー」（中央館）開催</li> <li>・ 医学系分館内にテーブル・複数人がゆっくり座れるソファを設置し、グループでの自学自習に快適な学修空間を導入提供</li> <li>・ 図書館オンライン講習会の企画・運営。再視聴可能なMoodleで提供。また、リアルタイム配信型の講習会も実施</li> <li>・ GLC（グローバルリーダーコース）合格者への図書館サービス提供を継続実施</li> <li>・ 熊本県立天草高校「SSH熊本大学研修」に協力</li> </ul> </li> <li>○ <b>図書館管理運営状況の充実・改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「熊本大学オープンアクセス方針」を、図書館と研究推進課の連携・協働により策定</li> <li>・ 教職員の附属図書館利用申請をオンライン（Web）化し、利用者の利便性を高めるとともに、業務の効率化も実現</li> <li>・ 設備マスタープランにより、経年劣化等による不具合が生じていた中央館入退館ゲートを更新。安全かつ安定した入館環境へ</li> <li>・ 設備マスタープランにより、止水板を導入。ハザード対象エリアである中央館の浸水対策措置を講じた。</li> <li>・ 薬学部分館のトイレや外壁の改修を実施。より安全で快適な学修空間へ</li> <li>・ 国立国会図書館より「レファレンス協同データベース企画協力員賞」受賞</li> <li>・ 蔵書点検の効率化として、昨年度、閲覧室の一部資料に貼り付けたQRコードを使用。蔵書点検作業の負担軽減</li> <li>・ 公益財団法人田嶋記念大学図書館振興財団 令和3年度助成金で採択された「動画と2次元バーコードを活用した蔵書点検の実証実験」を実施し、蔵書点検の効率化の方法を実験した。</li> </ul> </li> <li>○ <b>図書館資産の拡充・活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 購入中の加除式資料について、ニーズ確認のうえ購入見直し。削減できた費用（約40万円/年）で、参考図書を購入整備し、学術的な資料環境が向上</li> <li>・ 官報をオンライン版に切り替えることで費用の削減を行うとともに利便性が向上</li> <li>・ 横井小楠文書（古文書）の寄贈受入及び貴重資料の認定</li> <li>・ 自学自習に役立つ電子ジャーナルのバックファイルや電子ブックを整備。持続的な利用が可能となり、学術研究基盤を充実</li> <li>・ 除却候補図書の再貸出を継続実施。廃棄図書減少および図書資産の有効活用</li> <li>・ 永青文庫研究センターと連携し、本学所蔵の貴重資料である松井家文書（松井一紙）のデータ化の継続</li> <li>・ 三菱財団2021年度文化財保存修復事業助成により、熊本大学所蔵「熊本藩関係貴重資料群 7点」の修復が完了</li> </ul> </li> <li>○ <b>研究支援及び附属図書館の国際化に関する取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種トライアル（朝日新聞クロスサーチオプションコンテンツ、SpringerPlotocols）を実施し、短期間試用により、利用環境を提供</li> <li>・ 歴史的な円安となった中でも、電子ジャーナルパッケージを維持する努力を行い、学術研究基盤環境を維持</li> <li>・ 図書館ホームページでのAPC割引情報の提供。研究者（熊本大学）の支出減少をサポート</li> <li>・ データベース等（CAS SciFinder-n、文献管理ツールEndNote、Mendeley）のオンライン利用説明会を実施し、教育研究活動に貢献</li> <li>・ 学修支援スタッフ（図書館ティーチング・アシスタント）による学習相談・セミナーを実施</li> <li>・ 中央館多目的ラウンジに国際関連図書を集約し、「英語多読」コーナーと併せて国際化を推進するエリアとして利便性を向上させた</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>【改善を要する点】</b></p>